

景 気 動 向 調 査

(第 166 回)

2012 年 7 月 ~ 9 月 期 実 績

2012 年 10 月 ~ 12 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力のもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。尚、東日本大震災の影響により、2011年1月～3月期実績及び4月～6月期予測の調査については実施しておりません。

記

1. 実施時期 2012年8月下旬～2012年9月上旬
2. 調査対象期間 2012年7月～9月期実績
 2012年10月～12月期予測
3. 調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先 岩手県内企業 400社
5. 回答数 169通（回答率 42.25 %）
 <内訳> 製造業 58社 建設業 35社 卸・小売業 75社
6. 調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

2012年7～9月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で 22.1 と前期（4～6月期） 1.7 に比較し、20.4 ポイント下降している。10～12月期の景況感自体と売上高等も下降の見込みであり、年末特需の為販売価格や資金繰りは好転する見通しであるが、東日本大震災後の回復基調にブレーキがかかった感は否めない。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	7～9月期実績	10～12月期見通し
景況感	22.1	23.4
売上高・出荷高	3.5	1.1
収益	15.2	15.3
販売価格	6.0	3.0
仕入価格	15.7	17.0
資金繰り	9.1	6.8

国内経済は、全体的に悪化の様相を呈した。厳しい残暑が影響で季節商品の売れ行きが鈍化したことや、尖閣諸島をめぐる日中関係の悪化等がマイナス要因となった。また、円高の定着や消費者の低価格志向等も景気悪化の要因ともなっている。

これまで継続してきた復興需要は、特に小売業で低下傾向が強くなっている。製造業は一部スマートホーン関連産業が持ち直しているが、エコカー補助金の終了による多方面での低下が見られる。

設備投資については、被災地におけるグループ補助金等の資金確保の動きは一服感があるものの、内陸部においても企業進出等の積極的な姿勢が継続している。

岩手県内経済は、復興需要として建設業者の大半が増収に転じた事は特筆され、観光業においても震災被災地の視察を目的とした団体旅行客は増加傾向にある。

一方、最近になり百貨店売上高が9月までの増加傾向から減少に転じた事や、日中関係悪化の影響や有効求人倍率の低下等、今後の動向に注視が必要である。

<参考>

岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第 153 回	09年1～3月	92.7
2	第 152 回	08年10～12月	91.3
3	第 124 回	01年10～12月	91.2
4	第 109 回	98年1～3月	90.6
5	第 111 回	98年7～9月	90.0

（1971（昭和46）年以降）

1. 県内景況感について

全体のD Iは、 22.1となっている。

各業種別のD Iをみると、製造業が 39.7、建設業が 26.5、卸・小売業が 29.3である。10～12月期見通しでは、製造業が 2.9ポイント、建設業が 5.8ポイントであり上向き、卸・小売業は 5.9ポイント下向く見通しとなっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では 3.5となっている。業種別では、製造業が 6.9、建設業が 31.4、卸・小売業が 0.1である。

(2) 生産高または仕入高

製造業の生産高は 6.9、卸・小売業の仕入高は 4.2となっている。

(3) 在庫

製造業の製品在庫は 17.2、卸・小売業の商品在庫は 8.4となっている。

(4) 収益

D Iは、全体では 15.2となっている。業種別では、製造業が 20.7、建設業が 3.0、卸・小売業が 18.0である。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 6.0、仕入価格は 15.7となっている。

3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は 28.9%となっている。

業種別では、製造業が 32.8%、建設業が 14.7%、卸・小売業が 31.1%である。

また、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、「生産・販売能力の増加」が2位、「省力化・合理化」が3位となっている。

4. 資金繰り状況について

D Iは、全体では 9.1となっている。業種別では、製造業が 19.0、建設業が 2.9、卸・小売業が 4.2である。

5. 経営上の問題点について

各業種とも「売上・受注不振」、「収益不振」、「過当競争」が上位を占めている。

1. 県内景況感について

～ 建設業以外の業種の景況実績は、下向き感が強まる ～

[7～9月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）をみると、全業種では「良い」と答えた企業が24.6%（前期32.4%）、「悪い」が46.7%（同34.1%）で、DIは 1.7（同 22.1）と、20.4ポイント下向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が 39.7（同 26.3）、建設業が26.5（同31.4）、卸・小売業が 29.3（同1.3）となっており、全業種が下向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が23.9%、「悪くなる」が47.3%であることから、DIは 23.4となり、7～9月期実績と比較すると大きく下向き見通しとなっている。

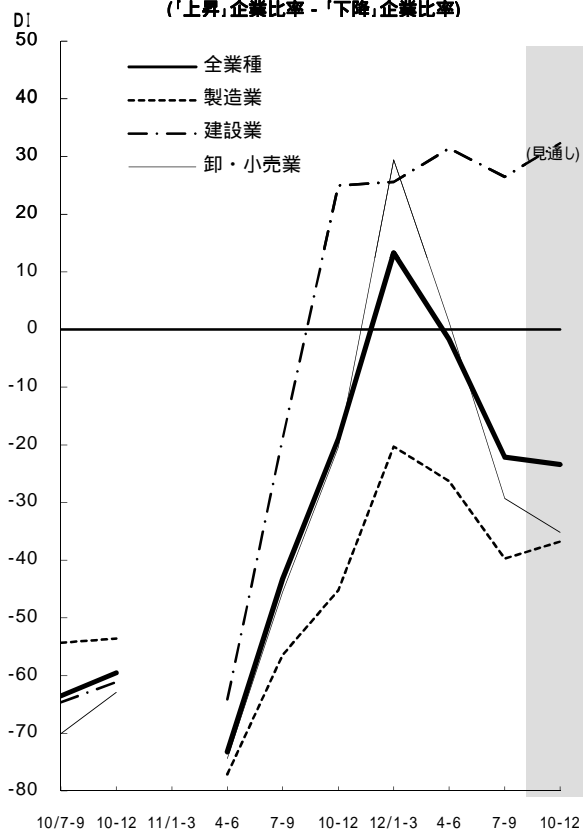
業種別にみると、製造業が 39.7、建設業が32.3、卸・小売業が 35.2となっており、製造業と卸・小売業の下向き見通しが顕著である。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	7～9月 (実績)	1.8	22.8	28.7	35.9	10.8	-22.1
	10～12月 (見通し)	1.2	22.7	28.8	38.7	8.6	-23.4
(製造業)	7～9月 (実績)	1.7	15.5	25.9	43.1	13.8	-39.7
	10～12月 (見通し)	0.0	19.3	24.6	49.1	7.0	-36.8
(建設業)	7～9月 (実績)	0.0	41.2	44.1	8.8	5.9	26.5
	10～12月 (見通し)	0.0	45.2	41.9	3.2	9.7	32.3
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	2.7	20.0	25.3	41.3	10.7	-29.3
	10～12月 (見通し)	2.7	16.2	27.0	44.6	9.5	-35.2

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 実績の下向きは継続し、見通しも下向きの方向 ～

[7～9月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が39.2%(前期50.0%)、「減少」が35.7%(同32.9%)となり、D Iは3.5(同17.1)と13.6ポイント下降し、下向きが継続している。

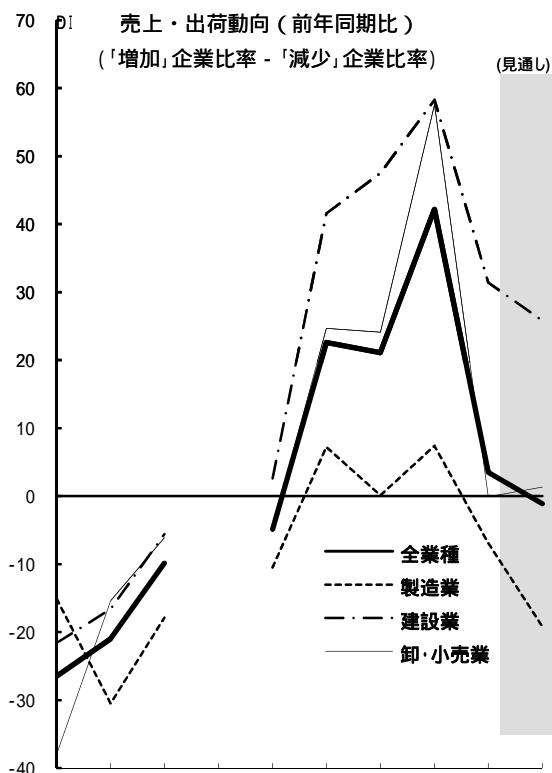
業種別にD Iをみると、製造業 6.9(前期5.3)、建設業 31.4(同40.0)、卸・小売業 0.1(同15.4)となっており、全業種で下向いている。

[10～11月期の見通し] 10～12月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が33.0%、「減少」が34.1%であることから、D Iは 1.1で、7～9月期実績と比較して下向き見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業で 19.2、建設業で25.8、卸・小売業で1.3となっており、7～10月期実績と比較して全業種とも下向き見通しとなっている。尚、全体的に下向き見通しであるが、建設業の高いD Iは維持され、他業種と異なる景況感は特筆される。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	D I	
全業種	7～9月 (実績)	7.1	32.1	25.1	25.6	10.1	3.5	
	10～12月 (見通し)	4.3	28.7	32.9	28.0	6.1	-1.1	
(製造業)	7～9月 (実績)	8.6	20.7	34.5	25.9	10.3	-6.9	
	10～12月 (見通し)	1.8	21.1	35.0	35.1	7.0	-19.2	
(建設業)	7～9月 (実績)	0.0	48.6	34.2	8.6	8.6	31.4	
	10～12月 (見通し)	2.9	42.9	34.2	14.3	5.7	25.8	
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	9.3	33.3	14.7	32.0	10.7	-0.1	
	10～12月 (見通し)	6.9	27.8	31.9	27.8	5.6	1.3	



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業と卸・小売業は見通しが下向く方向 ～

[7～9月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が36.2%（前期35.7%）、「減少」が29.3%（同34.0%）で、DIは6.9（同1.7）と上向きとなっている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は41.1%（前期45.5%）、「減少」が36.9%（同32.5%）で、DIは4.2（同13.0）と8.8ポイント下向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が22.8%、「減少」が36.9%であることから、DIは14.1で、7～9月期実績と比較して21.0ポイントと大幅に下向く見通しとなっている。

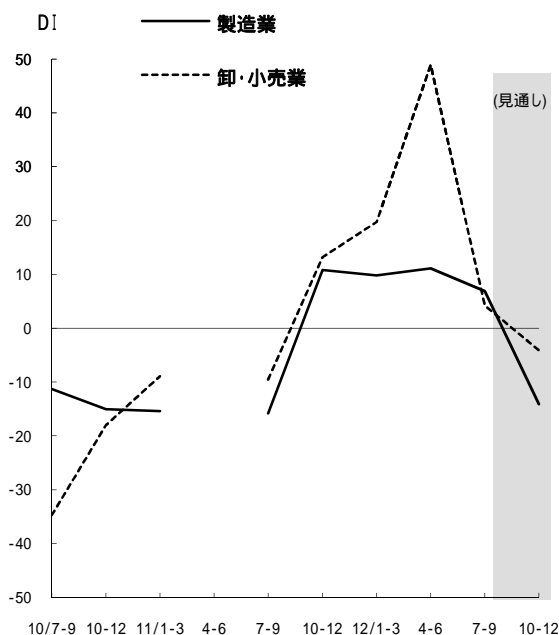
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が41.4%、「減少」が31.5%であることから、DIは4.1となり、7～9月期実績と比較して8.3ポイント下向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	7～9月 (実績)	10.3	25.9	34.5	22.4	6.9	6.9
	10～12月 (見通し)	3.5	19.3	40.3	31.6	5.3	-14.1
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	8.2	32.9	22.0	30.1	6.8	4.2
	10～12月 (見通し)	5.5	21.9	41.1	24.7	6.8	-4.1

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 各業種で製品在庫見通しは不足感が解消の方向 ～

[7～9月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は15.5%（前期17.9%）、「減少」が32.7%（同28.6%）であることから、DIは17.2（同10.7）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が10.0%（同21.2%）、「適正」が82.0%（同70.9%）、「不足」が8.0%（同20.0%）である。

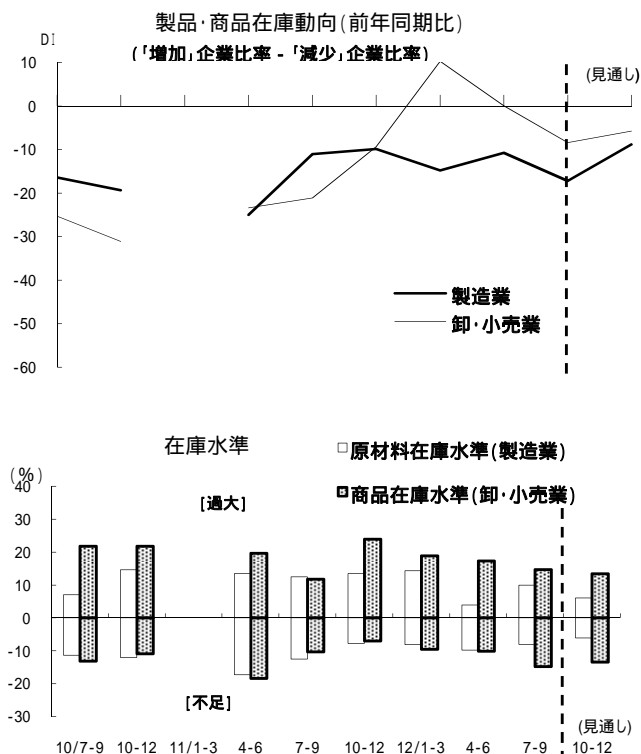
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が21.2%（前期23.3%）、「減少」は29.6%（同23.2%）であることから、DIは8.4（同0.1）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が14.7%（同17.3%）、「適正」が70.6%（同72.6%）、「不足」が14.7%（同10.1%）である。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が14.0%、「減少」が22.8%で、DIは8.8となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が6.1%、「適正」が87.8%、「不足」が6.1%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が17.2%、「減少」が22.9%であることから、DIは22.9となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が13.4%、「適正」が73.2%、「不足」が13.4%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（％）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	7～9月 （実績）	3.4	12.1	51.8	29.3	3.4	-17.2
	10～12月 （見通し）	3.5	10.5	63.2	22.8	0.0	-8.8
（卸・小売業）	7～9月 （実績）	8.5	12.7	49.2	28.2	1.4	-8.4
	10～12月 （見通し）	2.9	14.3	59.9	22.9	0.0	-5.7



(4) 収 益

～ 各業種とも下向き見通だが、建設業の堅調感は継続～

[7～9月期の実績] 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が26.0%（前期36.3%）、「減少」が41.2%（同36.3%）であり、D Iは 15.2（同0.0）となり15.2ポイント下向いている。

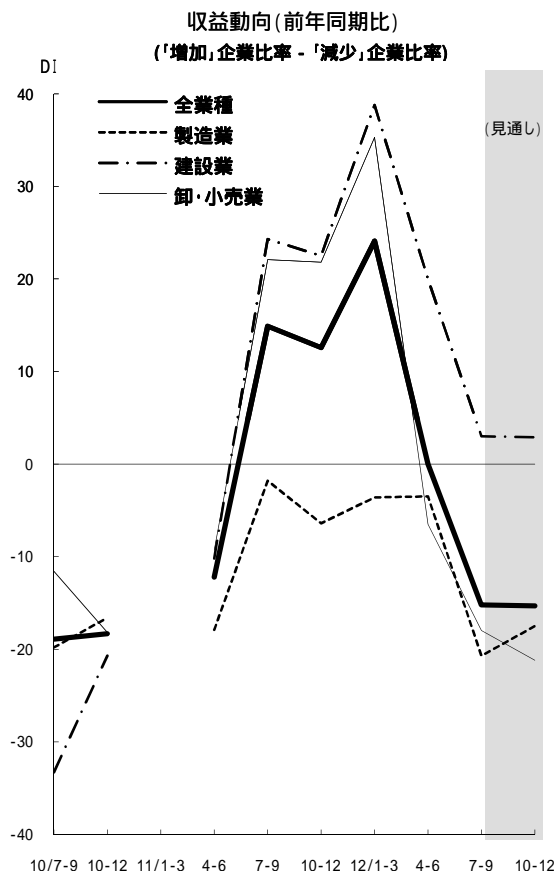
業種別にD Iをみると、製造業 20.7（前期 3.5）、建設業 3.0（同20.0）、卸・小売業 18.0（同 6.5）と、建設業は以前に比較して後退しているものの、製造業や卸・小売業に比較して堅調に推移している。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が23.3%、「減少」とみる企業が38.6%であることから、D Iは 15.3で、7～9月期実績と比較して横ばいである。

業種別にD Iをみると、製造業 17.5、建設業2.9、卸・小売業 21.2で、7～9月期実績と比較して、特に製造業、卸・小売業の下向き見通しが強い。

収 益(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	4.8	21.2	32.8	26.7	14.5	-15.2
	10～12月 (見通し)	1.8	21.5	38.1	28.8	9.8	-15.3
(製造業)	7～9月 (実績)	5.2	17.2	34.5	27.6	15.5	-20.7
	10～12月 (見通し)	0.0	21.1	40.3	28.1	10.5	-17.5
(建設業)	7～9月 (実績)	2.9	22.9	51.4	11.4	11.4	3.0
	10～12月 (見通し)	2.9	28.6	39.9	20.0	8.6	2.9
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	5.6	23.6	23.6	31.9	15.3	-18.0
	10～12月 (見通し)	2.8	18.3	36.6	32.4	9.9	-21.2



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格はやや上向き、仕入価格も上向く見通しである～

[7～9月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が11.5%（前期17.2%）、「低下」が17.5%（同15.4%）であることから、D Iは△6.0（同1.8）と下向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が26.5%（前期37.9%）「低下」が10.8%（同11.3%）であることから、D Iは15.7（同26.6）と下向いている。

[10～12月期の見通し] 10～12月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が13.4%、「低下」とみる企業が16.4%であることから、D Iは△3.0で、7～9月期実績と比較して僅かながら上向く見通しとなっている。

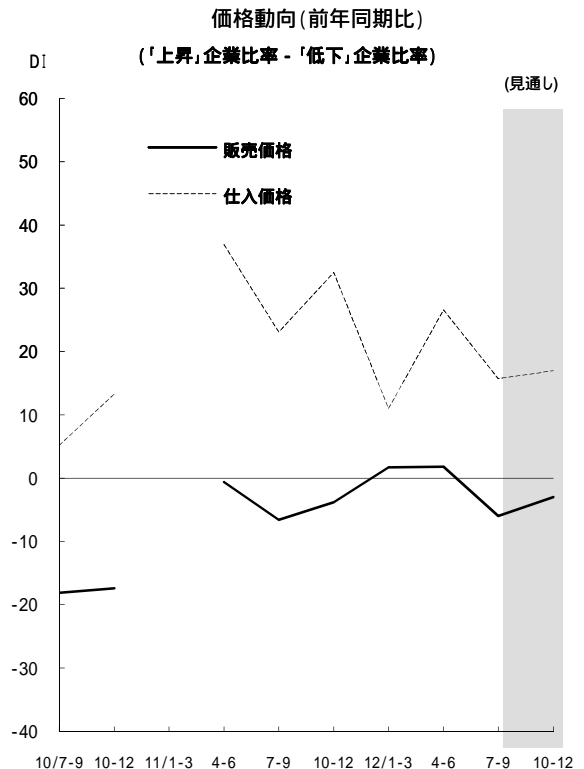
仕入価格については、「上昇」とみる企業が26.8%、「低下」とみる企業が9.8%であることからD Iは17.0となり、7～9月期実績と比較してD Iは上向く見通しである。

販売価格(前年同期比)

		D I (%)					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	D I
全業種	7～9月 (実績)	0.6	10.9	71.9	14.5	3.0	-6.0
	10～12月 (見通し)	0.0	13.4	70.2	15.2	1.2	-3.0

仕入価格(前年同期比)

		D I (%)					
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	D I
全業種	7～9月 (実績)	3.0	23.5	62.7	10.2	0.6	15.7
	10～12月 (見通し)	1.8	25.0	63.4	9.8	0.0	17.0



3. 設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

～ 実績および見通しは上向く予想 ～

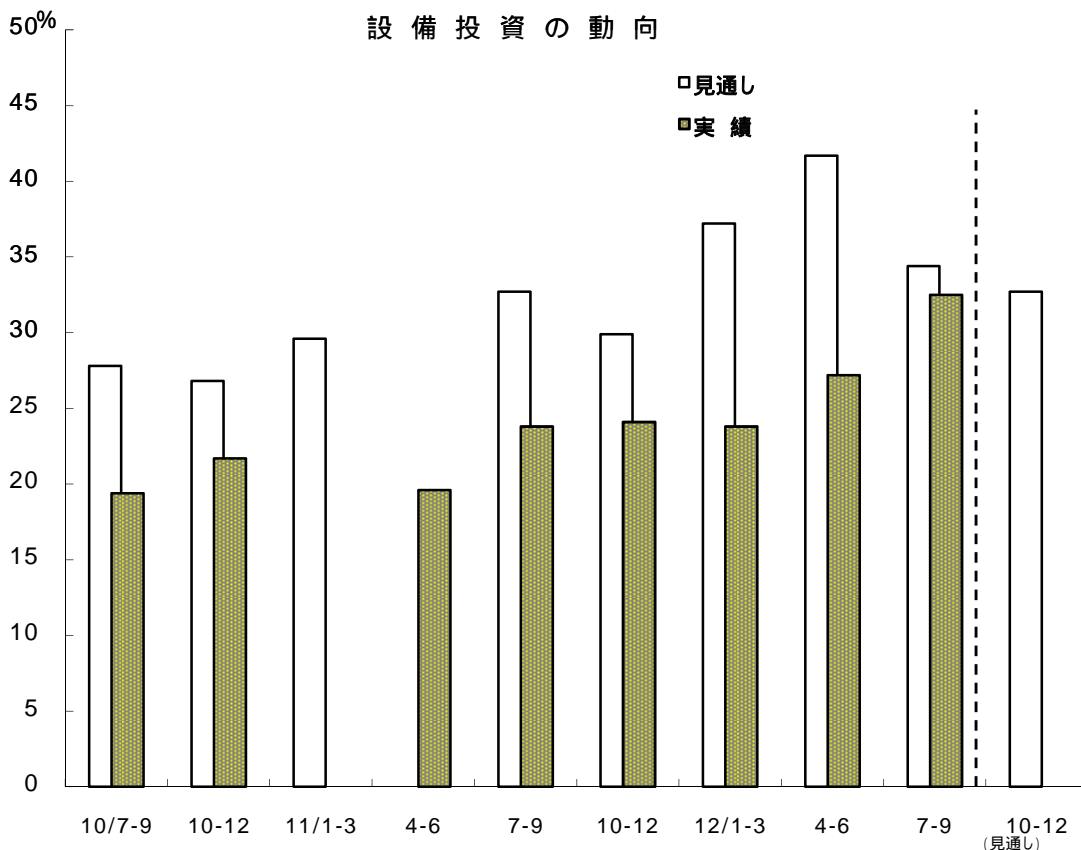
[7～9月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は28.9%（前期27.2%）と上向いている。

これを業種別にみると、製造業32.8%（前期31.6%）、卸・小売業31.1%（同26.0%）建設業14.7%（同22.9%）であり、建設業以外は上向いている。

[10～12月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で22.4%（前期21.7%）、「計画はあるが具体化していない」は10.3%（同12.7%）、「計画はない」は67.3%（同65.6%）であった。

「計画あり」は合計32.7%（同34.4%）と前期予想を下回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で36.2%（前期36.9%）、建設業で21.2%（同29.4%）、卸・小売業で35.1%（同34.7%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

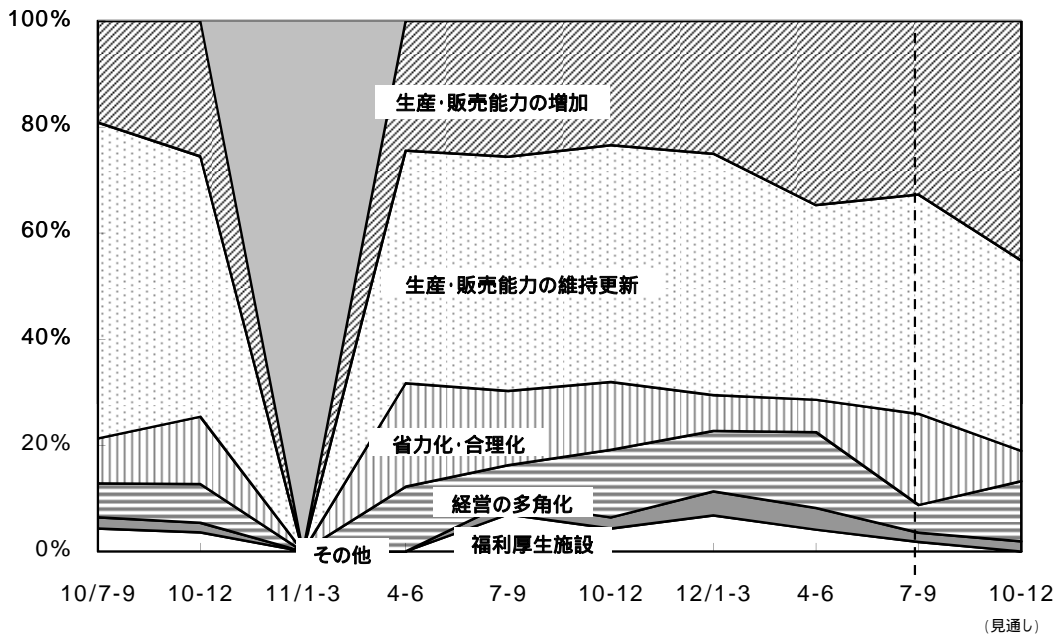
[7～9月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(28.9%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が42.1%(前期36.7%)でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が33.3%(同34.7%)で2位、「省力化・合理化」が17.5%(同14.3%)で3位となっている。

業種別にみると、製造業で「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」が同率1位。建設業では「生産・販売能力の維持更新」がトップである。

[10～12月期の見通し] 今後3カ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(32.7%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の増加」が45.3%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の維持更新」35.8%、「経営の多角化」11.3%の順となっている。

業種別では、建設業では「生産・販売能力の増加」がトップとなっているが、製造業と卸・小売業では「生産・販売能力の増加」がトップである。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 資金繰りは下向き実績から、上向きの見通しに変化 ～

[7～9月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が13.2%(前期19.6%)、「苦しくなった」が22.3%(同20.8%)であることから、D Iは 9.1(同 1.2)と下向いている。

業種別にD Iをみると、製造業が 19.0(前期 7.1)、建設業が 2.9(同2.8)、卸・小売業は 4.2(同1.3)と全業種がかなり下向いている。

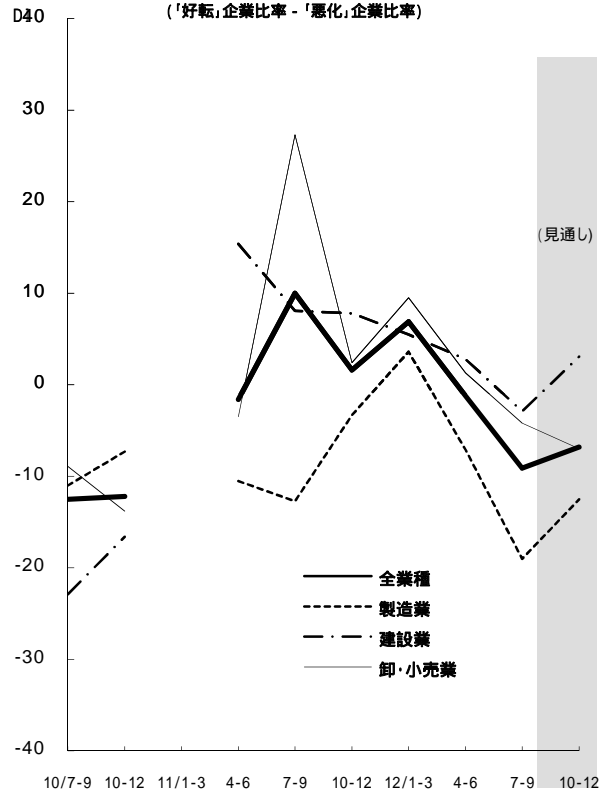
[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が11.3%、「苦しくなる」が18.1%で、D Iは 6.8となり、7～9月期実績と比較して、上向き見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業 12.6、建設業3.1、卸・小売業 7.0となっており、7～9月期実績と比較して、建設業と製造業は上向き見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(%)						
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	7～9月 (実績)	1.8	11.4	64.5	17.5	4.8	-9.1	
	10～12月 (見通し)	1.9	9.4	70.6	13.1	5.0	-6.8	
(製造業)	7～9月 (実績)	1.7	10.3	57.0	24.1	6.9	-19.0	
	10～12月 (見通し)	1.8	7.1	69.6	16.1	5.4	-12.6	
(建設業)	7～9月 (実績)	0.0	11.4	74.3	11.4	2.9	-2.9	
	10～12月 (見通し)	0.0	15.6	71.9	9.4	3.1	3.1	
(卸・小売業)	7～9月 (実績)	2.7	12.3	65.8	15.1	4.1	-4.2	
	10～12月 (見通し)	2.8	8.3	70.8	12.5	5.6	-7.0	

資金繰り動向(前期比)
(「好転」企業比率 - 「悪化」企業比率)



(2) 現金・預金

[7～9月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が16.0%（前期21.7%）、「減少した」が30.8%（同30.0%）であることから、DIは 14.8（同 8.3）と下向いた。

[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が11.6%、「減少する」が31.3%であることから、DIは 19.7（前期 19.5）と下向く見通しとなっている。

(3) 金融機関借入

[7～9月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が17.6%（前期15.1%）、「減少した」が33.0%（同36.7%）であることから、DIは 15.4（同 21.6）と上向いた。

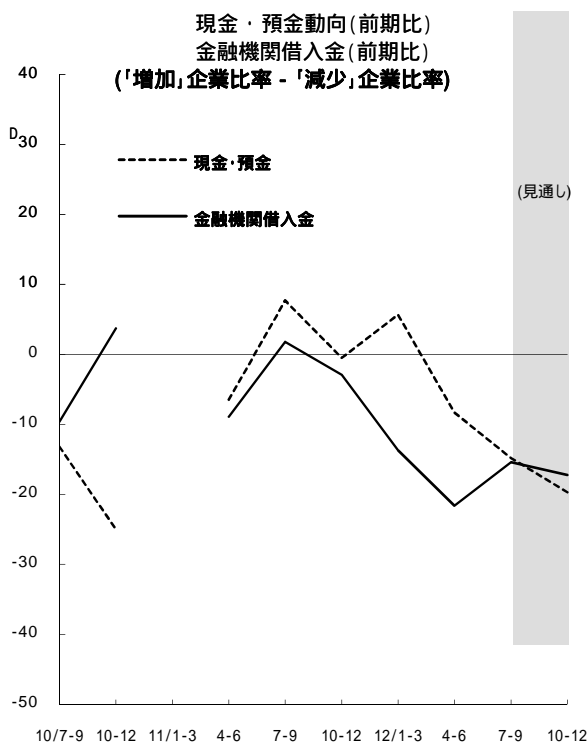
[10～12月期の見通し] 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が13.3%、「減少する」が30.5%であることから、DIは 17.2（前期 12.8）と下向く見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	1.8	14.2	53.2	27.2	3.6	-14.8
	10～12月 (見通し)	1.2	10.4	57.1	26.4	4.9	-19.7

金融機関借入金(前期比)

		(%)					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	7～9月 (実績)	3.0	14.6	49.4	29.3	3.7	-15.4
	10～12月 (見通し)	2.5	10.8	56.2	28.0	2.5	-17.2



(4) 販売代金回収期間

〔7～9月期の実績〕 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が3.0%（前期5.3%）、「長くなった」が7.8%（同7.1%）であることから、DIは 4.8（同 1.8）となった。また、89.2%（同87.6%）の企業は「変わらない」としている。

〔10～12月期の見通し〕 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が3.7%、「長くなる」が4.3%であることから、DIは 0.6（前期 4.7）となる。また、92.0%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

〔7～9月期の実績〕 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が1.8%（前期3.0%）、「短くなった」が3.0%（同4.1%）であることから、DIは 1.2（同 1.1）となった。また、95.2%（同92.9%）の企業は「変わらない」としている。

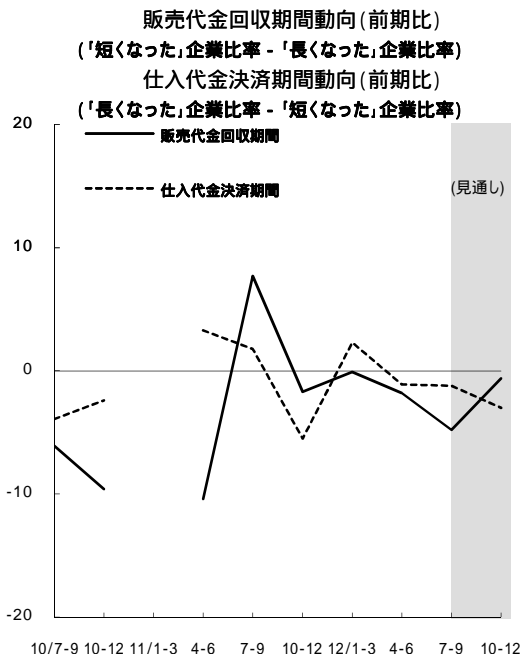
〔7～9月期の見通し〕 10～12月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が1.9%、「短くなる」が4.9%であることから、DIは 3.0（前期 0.6）となる。また、93.2%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間(前期比)

		（％）					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	7～9月 (実績)	0.6	2.4	89.2	7.2	0.6	-4.8
	10～12月 (見通し)	0.0	3.7	92.0	3.7	0.6	-0.6

仕入代金決済期間(前期比)

		（％）					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	7～9月 (実績)	0.0	1.8	95.2	1.8	1.2	-1.2
	10～12月 (見通し)	0.0	1.9	93.2	3.7	1.2	-3.0



5. 経営上の問題点について

～ 建設業では「人手不足」が経営上の問題の上位に ～

7～9月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」19.7%（前期19.9%）、「収益不振」14.2%（同14.1%）、「過当競争」13.2%（同17.6%）、「過当競争」が前回の2位から3位に繰り下げられた。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「売上・受注不振」30.0%（同24.3%）トップとなり、「収益不振」21.0%、「原材料・仕入価格高」16.0%の順となっている。建設業では「人手不足」22.2%（同14.3%）がトップとなり、「原材料・仕入価格高」18.5%、「過当競争」13.0%の順となっており、「人手不足」が顕著になっている。卸・小売業では「売上・受注不振」17.3%（25.7%）、「過当競争」16.5%、「収益不振」12.8%の順となっている。

経営上の問題点

